『センス・オブ・ワンダーを語る』

山極壽一、福岡伸一、中村桂子、畠山重篤/著　上遠恵子/編著

（かもがわ出版）

以前この欄でも紹介したことがある『センス・オブ・ワンダー』（レイチェル・カーソン著）が出版されて、今年で 60 年になります。この間世界中の子ども達に自然の素晴らしさを教え、子どもたちに寄り添う大人にも発見の楽しさを伝えてくれました。

今回紹介する『センス・オブ・ワンダーを語る』の著者の皆さんは、子どもの頃のセンス・オブ・ワンダーを今に至るまで持ち続け、大きく開花させたかた達です。開いた花も、はじめに出会った「はてな？」によって、それぞれ違います。山極さんはゴリラの生き方、福岡さんは動的平衡からフェルメールまで、中村さんは生命誌、畠山さんは森は海の恋人など。でも、生命の不思議に魅せられて歩んでこられた原点はみなさん、「センス・オブ・ワンダー」だったということが良くわかります。

また、『センス・オブ・ワンダー』の翻訳者上遠恵子さんとの対談も、普段は聞くことのできない秘話が披露され、楽しく読みました。

（小川）